

■タマネギ 元肥にリン酸肥料を十分に

タマネギの生育は、15～20度の冷涼な気候が適し、10度以下では生育が停止しますが、春になり気温が上がり、日が長くなって肥大します。

タマネギは土壌の酸性に弱い(最適 pHは 6.3～7.8)ので、苗床の予定地は早めに石灰を施し、20cm ぐらいの深さによく耕しておきます。

【品種】

早生品種は収穫期が早い反面、貯蔵性に劣り、反対に中晩生品種は収穫期が遅いが貯蔵性に優れます。長い間収穫を楽しむには早生と中生を作ることをお勧めします。早生には「ソニック」(タキイ種苗)、「浜育」(カネコ種苗)など、中生には「アトン」「O・K黄」(いずれもタキイ種苗)などが良いでしょう。なお、サラダ用の赤系品種には「湘南レッド」(サカタのタネ)などがあります。

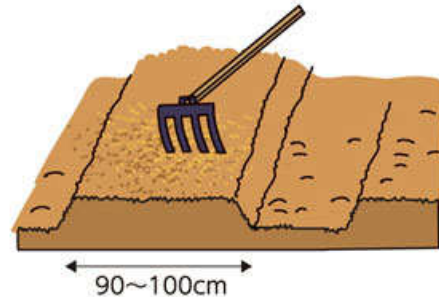
【畑の準備】

植え付けの2週間前に、1平方m 当たり苦土石灰 100gを散布してよく耕しておきます。1週間前に化成肥料(N-P-K=15-15-15%) 100g、過リン酸石灰(過石) 50g、堆肥 2kgを全面にまき、深さは20cm ぐらいに耕します。ベッド植え(4条植え)にする場合は幅90～100cmの栽培床を作ります(図1)。すじ植え(1条植え)では、畝幅60cmとし、幅20cmの溝を掘り、畝1m 当たり化成肥料50g、過石30g、堆肥1kgを入れて、土とよく混ぜておきます(図2)。

【植え付け】

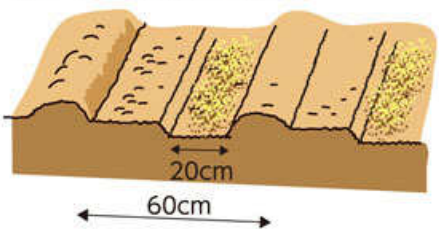
11月に入ると園芸店で苗の販売が始まります。草丈20～25cm、太さ5mm程度の苗を購入し、霜の降りる前までに植え付けると良いで

図1 畑の準備(ベッド植え)



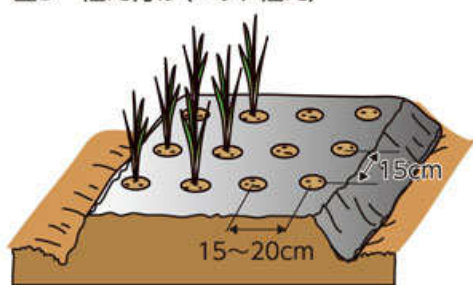
1平方m 当たり化成肥料100g、過石50g、堆肥2kgを入れて、よく混合してからベッドを作る

図2 畑の準備(すじ植え)



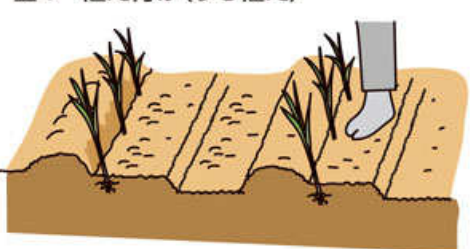
溝1m 当たり化成肥料50g、過石30g、堆肥1kgを入れて、土と混合する

図3 植え付け(ベッド植え)



条間15～20cm、株間15cmに植え付ける

図4 植え付け(すじ植え)



株間10cm、深さは苗の白い部分まで土を掛ける。株元を足で踏んでおく

しょう。ベッド植えでは、黒ポリマルチを張れば雑草が抑えられ、地温を上げて生育が良くなります(マルチ栽培)。穴開きマルチを使う場合は穴の規格に応じて、条間 15～20cm、株間 15cm に植えます(図 3)。1条植えでは、株間 10cm 程度にします(図 4)。

【追肥】

1 月上中旬と 2 月中旬～3 月中旬に、1 平方 m 当たり化成肥料 20g を株元にまき、土寄せします。マルチ栽培では、株元(マルチ穴)に化成肥料を施します。

【病害虫の防除】

葉が白くカスリ状となるネギアザミウマ被害には、オルトラン水和剤などで防除します。さび病やべと病には、ジマンダイセン水和剤などで予防します。

【収穫】

畑全体の 7～8 割の茎葉が倒れたら引き抜きます。2～3 日、日に当てて干してから、数球ずつ束ねて風通しの良い所につるし、貯蔵します。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

園芸研究家●成松次郎